

市民意見の市政への 反映について



古屋鋭治

問 市長が、新たな意見交換の場の創設を行うと考えた理由は。開催時期・回数、テーマは。地区毎の懸案事項や市の今後の事業に対する意見吸収は。

答 まちづくりは、市民の意見を聞くことが不可欠と考えた。様々な意見に耳を傾けることが公正な判断と開かれた市政運営につながる。市政懇談会は、市内全域を対象に今後も継続する。開催時期・回数、テーマ等は未定。

高齢者及び障がい者のタクシー・バス・鉄道利用券の改善について

問 ①制度の変更前後の比較は。②対象者からの不満の声を把握しているか。③来年度から共通の利用券とし、金額を1人1万円としてはどうか。

答 ①令和元年度と令和2年度交付者数・利用率は、元年度が5965人、58・2%、2年度は5893人、37・6%となっている。2年の比較は事業内容が異なっていることや、コロナ禍で外出が自粛されていたこともあり単純比較

できない。②市民からは、使い勝手が悪い、使い方がわかりにくい、100円券に戻し共通券にしてほしいなどの声がある。③市長に市民の多くから意見・要望頂いたので、来年度から共通の100円券とした。金額については、財政状況等を鑑み検討していく。



来年度から共通券へ

浮橋温泉復活について

問 現状の説明を。浮橋温泉は、すでに1億8500万円もの財源を投じてきている。加えて、年間4万人以上の利用者が見込まれることや、復活を望む声もあり継続すべきと考えるが。

答 平成24年度に浮橋温泉施設基本計画を取りまとめたが、湯量や費用対効果の観点から適切でないと判断した。温泉スタンドは、令和2年3月に浴用施設等廃止届を県に提出した。作業員駐在のプレハブ小屋は、令和2年11月に撤去した。温泉継続は、ポンプ修理代や維持管理費のみならず、更に大きな経費が掛かるリスクもあり、税金を投入するのは適切でないと考えている。

高齢者タクシー券の 利用改善と拡充について



鈴木俊治

問 タクシー券、バス・鉄道利用券の利用状況は。

答 令和2年度は、利用対象者数7680人に対し、交付者数5221人、交付率67・9%。利用率は、タクシー・バス・鉄道合計で38・2%。うち、69・1%がタクシー利用。

問 初乗り券から1枚100円券に戻し、バス・鉄道共通とできないか。

答 令和4年度から事業者と調整の上、タクシー・バス・鉄道共通の100円券としたい。

問 タクシー券を1万円に増額する考えはないか。

答 増額は、この制度の見直しの中で、十分検討する。

順天堂大学医学部附属静岡病院増改築について

問 工期ごとの工事期間と工事内容は。

答 本年7月竣工予定第1期工事は、救急救命センターが主。第2期工事は、解体工事を令和3年11月から令和

4年9月。一般病棟及び外来用の新築工事を令和4年10月から令和6年3月。第1期工事箇所に隣接する県道改良工事の進捗状況は。

答 この県道韮山伊豆長岡修善寺線は、静岡県が地権者の方々に用地交渉を継続中。工事完了後2・5mから3mの歩道ができ歩行者の安全も確保できる。

市役所庁舎建設について

問 庁舎機能の不便さへの認識は。

答 事務所のスペースが狭く、会議室が少ない。部署間をまたぐ会議等では、庁舎間の移動により、時間とコストがかかる。

問 分散化している庁舎機能を集約する考えはないか。

答 行政サービスの不便さや職員の移動コスト等の問題は、ICT（情報通信技術）等の活用により、緩和していきたい。市長任期中は、庁舎機能集約のための新市庁舎建設を行う考えはない。

問 庁舎を増築する考えはないか。

答 増築については考えていきたい。



伊豆の国市役所本庁舎

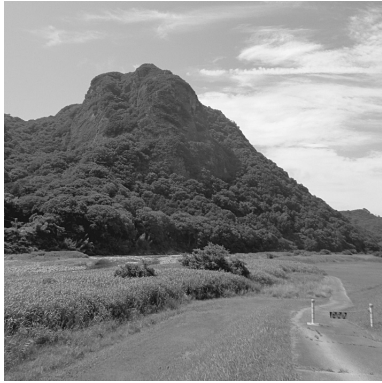
市長の市政等への 取組姿勢について



伊豆の国市の魅力と課題について。

世界文化遺産の韮山反射炉、仏師運慶による国宝の仏像、北条ゆかりの地など、全国的に見ても価値ある歴史文化遺産。そして、狩野川や城山などの自然景観、温泉、世界に誇れる農産品など様々な資源を有していることは大きな魅力である。

課題は、これらがフルに活用されていないと思うので、今後、現状把握を含め、市政運営の中で検討し取り組んでいきたいと考えている。



狩野川と城山

市政に取り組むスタンスについて。

「公平公正で良識と品格のある市政」を目指す。それは、「事務執行に

あたり、公平で偏りのない健全な判断と責任のもと、誠実に管理及び執行することができると考えている。

市政への反映については、外部からの不当な要求や介入等により、公共の利益が損なわれないようにする。

また、市民からの意見や提案は公平公正という点を踏まえ適切に対応する。

市議会との関係については。

議会とは、相互に適切な緊張関係を保ち、共に市民の福祉の向上、市政の発展等を目指すパートナーでありたいと考えている。

喫緊の経済対策等取組方針は。

市では、令和2年度から繰り越した予算に宿泊キャンペーン事業やプレミアム付商品券事業がある。

感染状況や、国や県の対応などを勘案し、これらの事業を実施する。

市職員の育成については。

職員の資質向上に向けた研修を計画し、また、接遇や窓口サービスの改善に向けた検討組織を立ち上げる準備を進めている。

民間企業への出向については。

国も民間への研修を行っている。民間交流して、その経験を市政に役立てていくことは当然あつていいと思う。

市政運営の方向性(思い) について



地域活性化のため将来を見据えた施策とは。

観光分野では、歴史・文化や温泉、豊かな自然や農産物等をフルに活用した効果的な観光施策を推進。農業分野では、6次産業化、地産地消の取り組み、新規就農支援等。企業誘致は、未利用適地の進出希望企業への橋渡しを進める。テレワークやワーケーションなどへの勤務形態への環境整備を進める。さらに、市民主体のまちづくりに参画する協働の支援をしていく。

市政運営の現状の課題は。危機管理の観点から市民相談の総合的な窓口(災害・福祉・教育・医療等)の必要は。

適正な人事配置、市役所に対する信頼の構築が必要。窓口については内部で良く検討して組織改革を進めたい。

財政の健全化のためには。

税金・使用料や手数料などについて適切な見直し、歳出削減のために徹底した歳出構造の見直しを行いたい。

市民の声を聞くとは。

市政懇談会は継続し、より小規模な市民との対話の場を設けたい。行政運営に関する情報を積極的かつ適切な時期に公開し、パブリックコメント等により広く意見を募りたい。

公共交通の在り方について

高齢化が進み外出支援を必要とする市民が増加。中山間地の公共交通の在り方が問われるが現状の認識は。

地域公共交通基本計画のアンケート調査で住民満足度が低い理由は、バスの本数が少ない・行きたいところに行けるバスがない・近くにバス停がない・時間がかかる・料金が高等。

改善策は。

成功している星和区・立花区の手配マン型の交通システムがよい改善策ではないかと思う。地元住民・交通事業者などの意見も踏まえ、地域の実情をしっかりと把握して方策をきめ細かく考えていく必要がある。

近隣市町との連携については。

交通の広域連携は必要。行政サービスも含め積極的に連携していきたい。



伊豆の国市
「暮らしの公共交通
まるごとマップ」

教員の負担軽減のための 学校の業務改善について



菅原恵子

問 これからの学校教育について市長はどのように考えるか。

答 将来の市を担う子どもへの教育は重要な施策の一つであり、積極的に取り組んでいく。市総合計画により、経済格差や家庭環境等による学力格差が生じることのないよう、またグローバル教育・異文化教育を進めていく。

問 教育長が教育現場で感じてきた市の学校教育の問題点は何かと思うか。

答 教職員の自助努力だけではどうにもならない「教職員の働き方改革」が教育の質を確保するためには避けて通れない課題と認識している。

問 新教育長としての抱負は。

答 まさに「教育予算増額と人材確保」が教育長としての仕事と考えている。年々、教育予算は絞られてきたが、学校教育を支援するスタッフは充実しており、近隣市町と比べて手厚く予算措置されている。

変える・減らす・なくす業務改善、安全で安心して学べる教育環境の整備

等、予算の使い方に優先順位を付けながら取り組みたい。「教職員の働き方改革」について、教員でなければできないことや教員でなくてもできること、また地域社会と連携してできることなど、整理して考える必要がある。

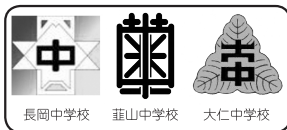
問 SSS（スクールサポートスタッフ）、学習生活支援員の増員は。

答 県費負担のSSSについては、近隣市町と共に勤務時間増を県に強く要望している。学習生活支援員も重要な役割を担っており、来年度も市予算編成時に必要人数を要求、協議していく。

問 児童生徒の出欠席等の保護者との連絡網について現状は。防災にも対応できるスマホを使った連絡方法を考えているか。

答 家庭からは連絡帳・電話・兄弟姉妹や登校グループ等による連絡。学校からはマ・メールで送信し周知している。令和2年度に市立幼保ではスマホを使った連絡システムを導入したことにより、一括管理でき業務改善が図られている。今後は保護者の利便性を検証し、小中学校への導入も検討する。

入も検討する。



中学校の校章

大河ドラマ放映に伴う ソフト事業について



山本昭彦

問 「伊豆の国市北条家歴史散策マップ」の配布状況と、散策者の安全確保について。

答 マップは、文化財課の協力を得て大河ドラマ推進課が作成し、令和2年度及び3年度に各1万部を印刷している。市内の小中学校に配布するとともに、公共施設、観光協会、旅館組合、商工会などに配布している。

散策ルートの選定については、なるべく交通量が少なく、安全が確保しやすいルートを選定している。

問 市内小学生ばかりでなく、近隣小学生の史跡めぐりに活用できると思うが、史跡を巡ってもらえる小学校を1校でも増やすという考えはないか。

答 県内の小・中学校に歴史散策マップのように巡ってもらいたいと考えている。これからのいろいろな宣伝をしていきたい。

問 義時コースの四日町八坂神社を過ぎ、狩野川堤防上を進むことになるが、堤防に上がる部分の危険性を把握して

いるか。

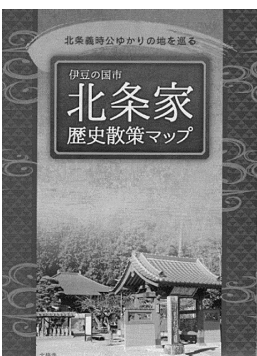
答 伊豆中央高校から松原橋に向かい一方通行で降りるところであるが、車両と歩行者の安全を確保することが難しい部分である。国交省が管理する狩野川堤防を道路として占用している部分であり、改修は困難と思われる。

問 政子コースの真珠院から成福寺に進む道路は、舗装の傷みが激しく安全に通行できる道路とは言い難いが。

答 カラー舗装は、景観に配慮するためのものであるが、通常舗装よりも傷みが早いと聞いている。通常舗装を実施することで計画している。

問 守山を登頂するコースも紹介されているが、現在設置されている手すり等の安全性は確保されているか。

答 老朽化で傷んでいる階段については、既に工事を発注している。手すりの悪いところなども含め、安全が確保できるよう早急に対応していきたい。



北条家
歴史散策マップ